

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



ハッ場ダムとハッ場あがつま湖（令和6年11月5日撮影）

令和6年11月6日

関東地方整備局

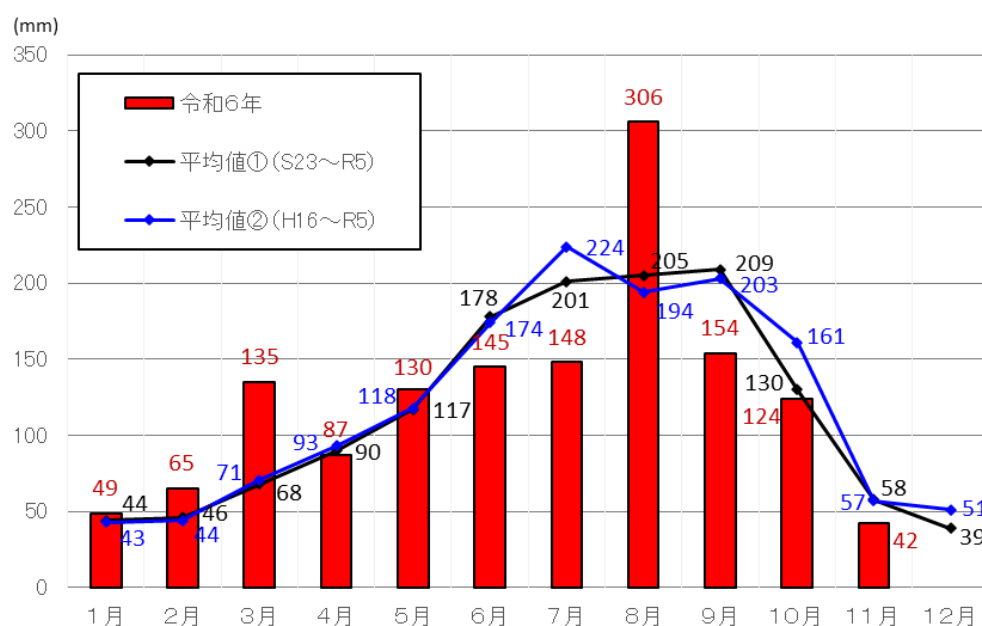
1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和6年11月5日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における4月の降水量は平均値（昭和23年～令和5年の76年間の平均）の97%（87mm）、5月の降水量は平均値の111%（130mm）であり、平年並みの降水量でした。6月は平均値の81%（145mm）、7月は平均値の74%（148mm）と平均値を下回りましたが、8月は台風10号の影響等による降雨で平均値の149%（306mm）と平均値を大きく上回りました。9月は平均値の74%（154mm）、10月は平均値の95%（124mm）で平均値を下回っています。

（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで）

表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで） 単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,396
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294
平成26年	18	114	75	58	83	330	192	218	87	221	70	57	1,523
平成27年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
平成29年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216
平均値① (S23~R5)	44	46	68	90	117	178	201	205	209	130	58	39	1,385
平均値② (H16~R5)	43	44	71	93	118	174	224	194	203	161	57	51	1,433
令和6年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	42		1,385
平均値①に 対する割合	111%	141%	199%	97%	111%	81%	74%	149%	74%	95%	72%		100%

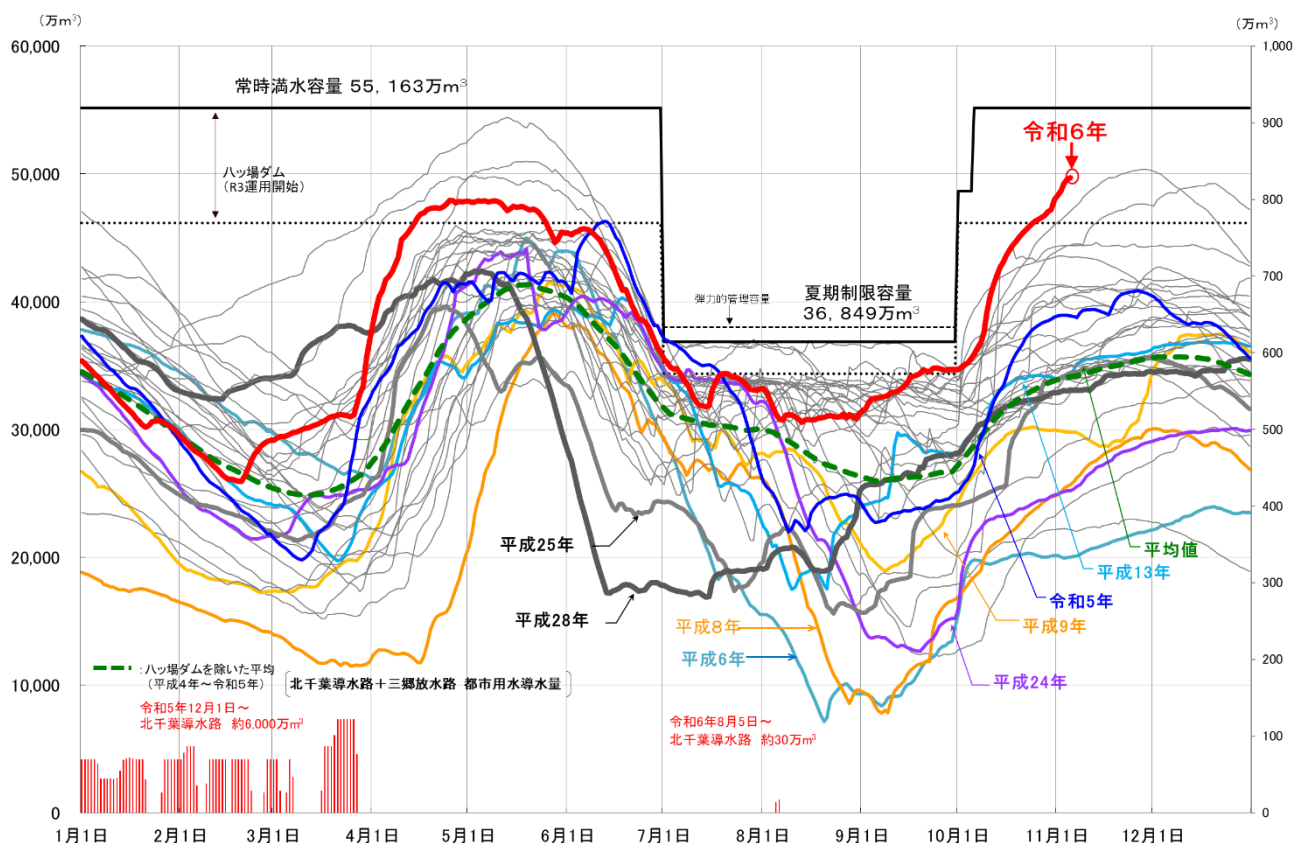
注）平均値①はデータが存在する期間（76ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等（令和 6 年 11 月 5 日 0 時現在）

利根川上流 9 ダムのうち、利根川上流の 8 ダム（矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、藺原ダム、ハッ場ダム、草木ダム、渡良瀬貯水池）が 4 月 26 日時点で満水となり、下久保ダムを含めた 9 ダム合計の貯水率が約 87%となりました。

6 月から 7 月にかけて平年を下回る降水量であったため、ダムからの補給を行いました。8 月下旬の台風 10 号などの降雨により、貯水量は徐々に増加しました。その後、9 月以降は農業用水の取水量の減少により貯留を行っており、11 月 5 日現在の合計貯水量は、4 億 9,691 万 m³（貯水率約 90%）となっています。（図－2、表－2 参照）



図－2 利根川上流 9 ダム合計貯水量図（令和 6 年 11 月 5 日 0 時現在）

表－2 利根川上流 9 ダム ダム別貯水量（令和 6 年 11 月 5 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	11,278	98%
奈良俣ダム	8,500	8,088	95%
藤原ダム	3,101	2,876	93%
相俣ダム	2,000	1,604	80%
藺原ダム	1,322	0	0%
ハッ場ダム	9,000	8,835	98%
下久保ダム	12,000	9,463	79%
草木ダム	5,050	4,907	97%
渡良瀬貯水池	2,640	2,640	100%
9 ダム合計	55,163	49,691	90%
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 5 年)		34,126	(平均値に対して146%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

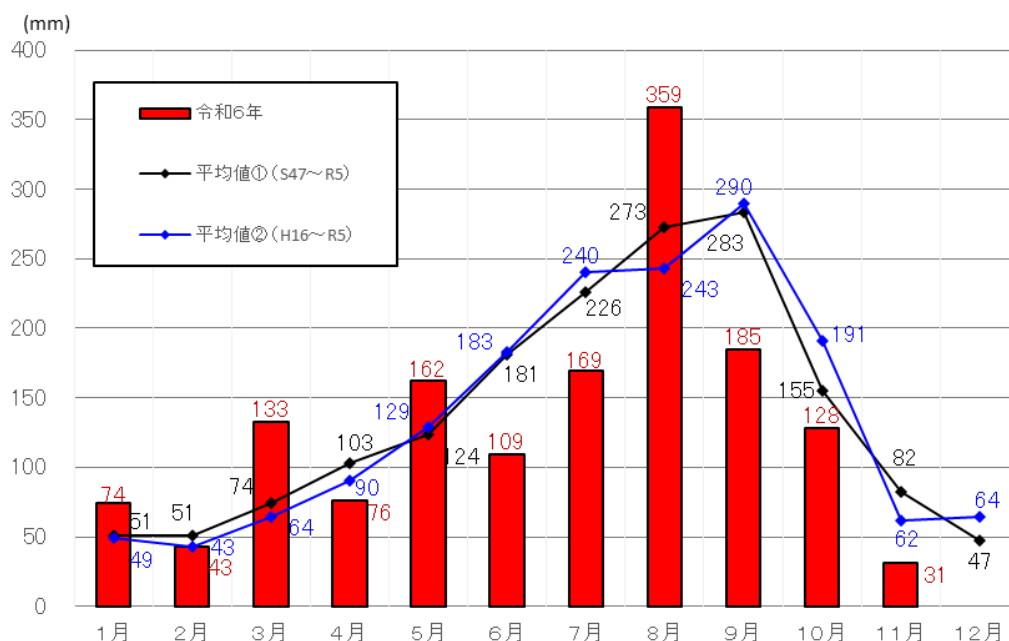
※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和6年11月5日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における4月の降水量は平均値（昭和47年～令和5年の52年間の平均）の約74%（76mm）で平均値を下回り、5月は平均値の約131%（162mm）で平均値を上回る降水量でした。6月は平均値の約60%（109mm）、7月は平均値の約75%（169mm）と平均を下回りました。8月は台風10号の影響等による降雨で平均値の132%（359mm）となり平均値を上回りましたが、9月は平均値の約65%（185mm）、10月は平均値の83%（128mm）と平均値を下回っています。

（図－3、表－3 参照）



図－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで）

表－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614
平成26年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420
平均値① (S47~R5)	51	51	74	103	124	181	226	273	283	155	82	47	1,650
平均値② (H16~R5)	49	43	64	90	129	183	240	243	290	191	62	64	1,648
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	31		1,469
平均値①に対する割合 (%)	145%	84%	180%	74%	131%	60%	75%	132%	65%	83%	38%		89%

注) 平均値①はデータが存在する期間（52ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等（令和6年11月5日0時現在）

鬼怒川上流4ダムの貯水量は、3月上旬より雪解けによりダムへの流入量が増加し、4月16日に貯水率約87%となりました。4月中旬以降は農業用水の需要を受け、ダムからの補給量が増加しました。更に、6月、7月は降水量が平均値より少なかったことからダムからの補給が継続したため、7月19日より10%の取水制限を開始しました。その後、8月下旬の台風10号などの降雨により貯水量は徐々に回復し、9月以降は農業用水の取水量の減少により貯水量が増加したため、9月13日に取水制限が解除となりました。その後貯留を行っており、11月5日現在の合計貯水量は、1億3,601万m³（貯水率54%）となっています。（図-4、表-4参照）

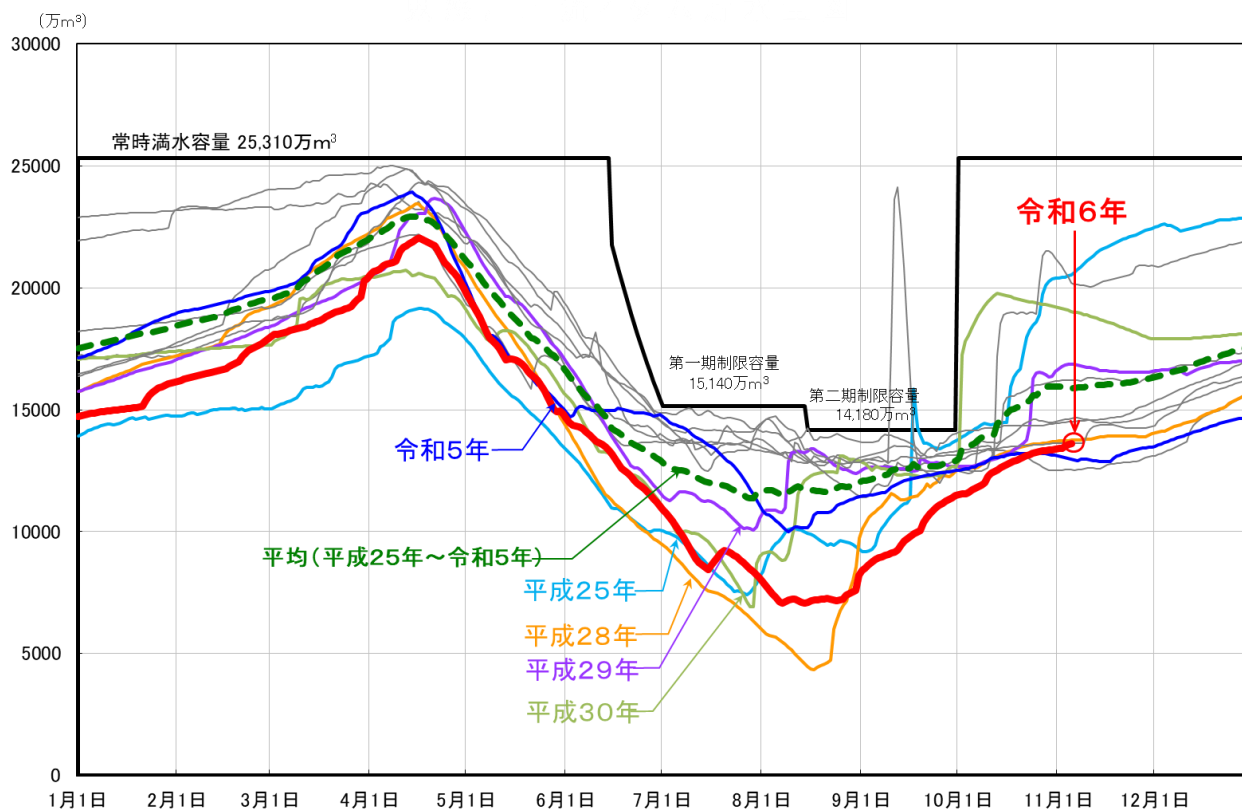


図-4 鬼怒川上流4ダム合計貯水量図（令和6年11月5日0時現在）

表-4 鬼怒川上流4ダム ダム別貯水量（令和6年11月5日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	732	23%
川俣ダム	7,310	5,916	81%
川治ダム	7,600	3,867	51%
湯西川ダム	7,200	3,086	43%
4ダム合計	25,310	13,601	54%
4ダム合計の平均値 (平成25年～令和5年)		15,899	(平均値に対して86%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和6年11月5日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における4月の降水量は平均値（昭和40年～令和5年の59年間の平均）の約76%（72mm）であり平均値を下回りましたが、5月は平均値の140%（184mm）、6月は平均値の111%（184mm）と平均値を上回る降水量でした。7月は平均値の約半分である55%（103mm）でしたが、8月は台風10号の影響等による降雨で平均値の196%（409mm）となり、平均値を大きく上回りました。9月は平均値の半分の約50%（115mm）、10月は平均値の約93%（146mm）となっており、平均値を下回っています。

(図-5、表-5 参照)

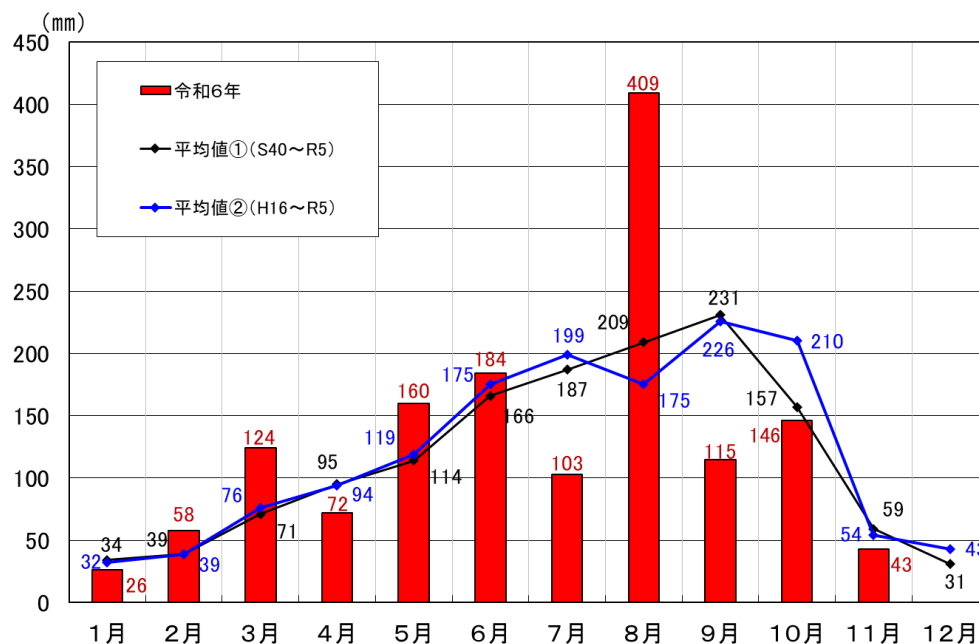


図-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで）

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和6年11月5日0時まで）単位：mm

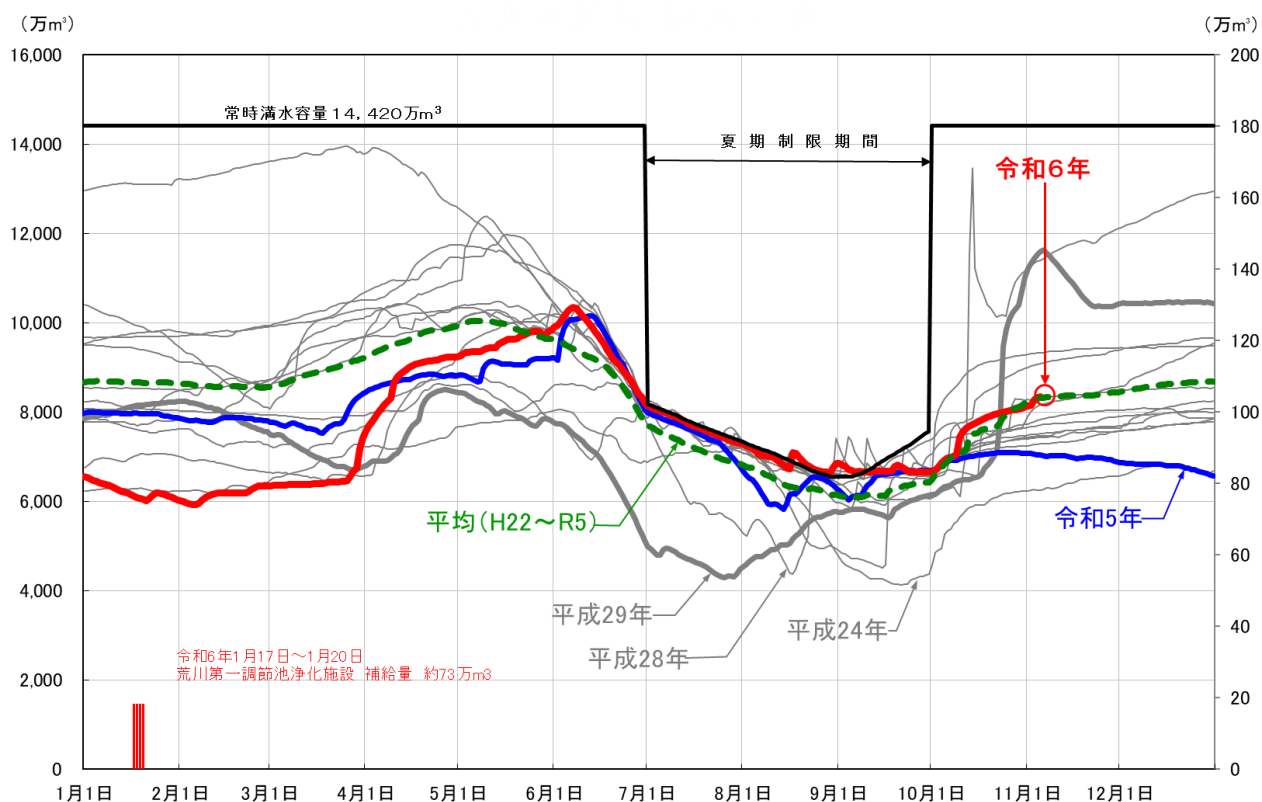
単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
平均値① (S40~R5)	34	39	71	95	114	166	187	209	231	157	59	31	1,393
平均値② (H16~R5)	32	39	76	94	119	175	199	175	226	210	54	43	1,442
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	43		1,440
平均値①に対する割合 (%)	76%	149%	175%	76%	140%	111%	55%	196%	50%	93%	73%		103%

注) 平均値①はデータが存在する期間（59ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和6年11月5日0時現在）

荒川4ダムの貯水量は、4月以降も平均値を下回っていましたが、5月、6月は平均値を上回る降雨があったため貯水量は増加し、6月以降は概ね平均値以上の貯水量を確保した状態で運用することができました。11月5日現在の合計貯水量は、8,344万m³（貯水率58%）となっています。（図－6、表－6 参照）



図－6 荒川4ダム合計貯水量図（令和6年11月5日0時現在）

表－6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和6年11月5日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	30	2%
滝沢ダム	5,800	3,423	59%
浦山ダム	5,600	3,877	69%
荒川貯水池	1,020	1,014	99%
4ダム合計	14,420	8,344	58%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和5年)		8,311	(平均値に対して100%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和6年11月1日0時までの降水量）

小河内ダム地点上流域における4月の降水量は平均値（大正14年～令和5年）の約86%（94mm）であり、平均値を下回りましたが、5月は平均値の約183%（222mm）、6月は平均値の146%（267mm）と平均値を上回る降水量でした。7月は平均値の約半分である約52%（112mm）でしたが、8月は台風10号の影響等による降雨で平均値の178%（437mm）となり平均値を上回りました。9月は平均値の約25%（62mm）、10月は平均値の約89%（154mm）となっており、平均値を下回っています。（図-7 参照）

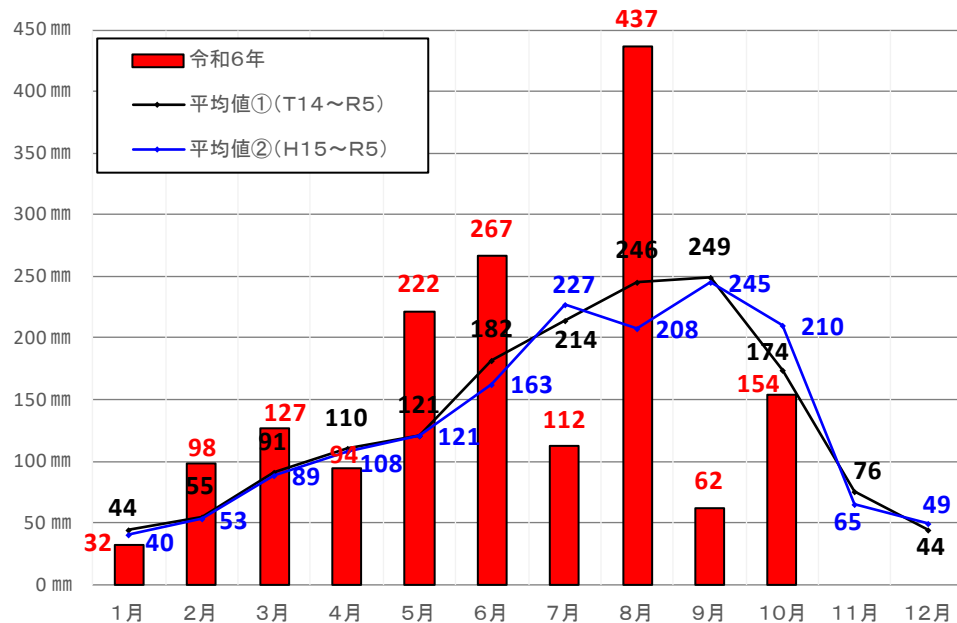


図-7 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和6年11月1日0時までの降水量）

2) 小河内ダムの貯水状況

令和6年11月5日7時現在の貯水量は、1億6,627万m³となっています。（図-8 参照）

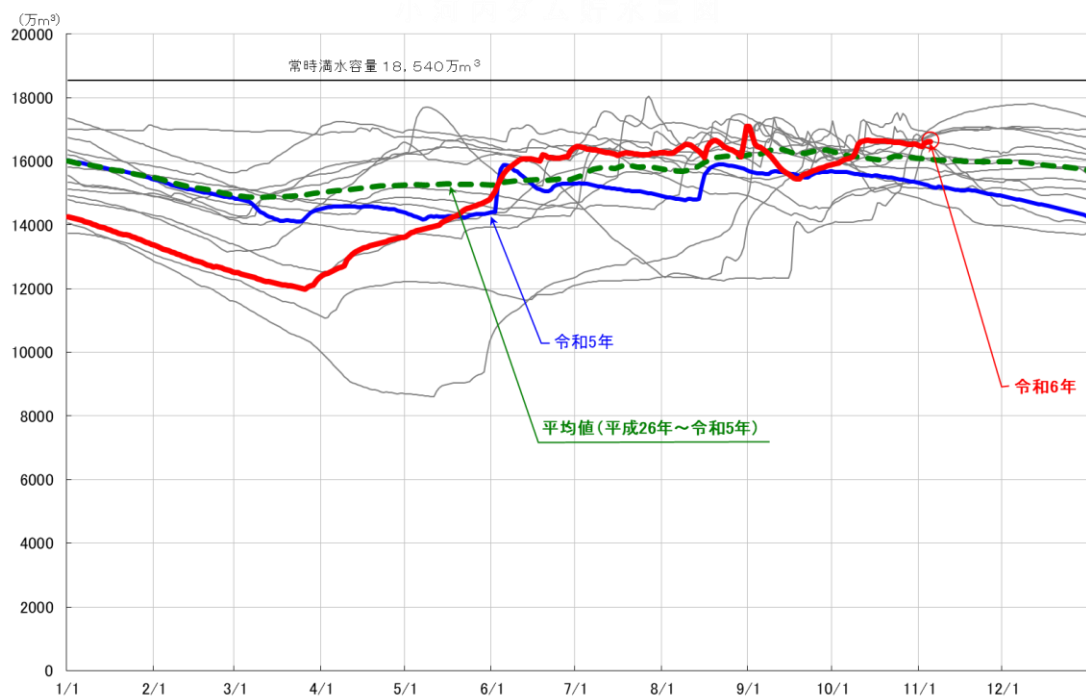


図-8 多摩川小河内ダム貯水容量図（令和6年11月5日7時現在）

2. 今後の見通し

気象予報

令和6年10月31日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和6年11月2日から令和6年12月1日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が80%、降水量は「多い」の確率が60%となっています。また、令和6年10月22日気象庁発表の3か月予報(令和6年11月から令和7年1月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が40%、降水量は「多い」確率が30%となっています。

なお、令和6年9月24日気象庁発表の寒候期予報(12月～2月までの天候の見通し)によると、関東甲信越地方の今冬は、気温が「高い」の確率が30%、降水量が「多い」確率が20%となっています。

1か月予報(令和6年10月31日発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 11/02～12/01	10 10 80
		1週目 11/02～11/08	10 30 60
		2週目 11/09～11/15	10 20 70
		3～4週目 11/16～11/29	10 30 60
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 11/02～12/01	10 30 60
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 11/02～12/01	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報(令和6年10月22日発表)

気温、降水量の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	11月～01月	20 40 40
		11月	10 40 50
		12月	40 30 30
		01月	40 30 30
降水量	関東甲信地方	11月～01月	40 30 30
		11月	30 30 40
		12月	40 40 20
		01月	40 40 20
降水量	北陸地方	11月～01月	20 40 40
		11月	30 40 30
		12月	20 40 40
		01月	20 40 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

寒候期予報(令和6年9月24日発表)

気温、降水量の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	冬12月～02月	40 30 30
降水量	関東甲信地方	冬12月～02月	40 40 20
気温	北陸地方	冬12月～02月	40 30 30
降水量	北陸地方	冬12月～02月	20 40 40
降雪量	北陸地方	冬12月～02月	20 40 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3. 今後の対応

- 今後は、利根川上流域の降水や積雪状況、都市用水の水利用を十分考慮し、工事に伴う貯留制限による利水容量への影響を最小限にするよう努めるとともに、既存施設等を広域的かつ効果的に活用してきめ細かな運用を行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。